

	ワークスペース名
はじめに / ソースデータの準備 / FME Workbench の起動	
実習 1 ソースデータの読込と内容の確認	Example01.fmw
実習 2 データフォーマットの変換	Example02.fmw
実習 3 属性の変換と属性テーブルの作成	Example03.fmw
実習 4 データフローの条件分岐・公開パラメーターの定義と利用	Example04.fmw
実習 5 属性の結合・属性値による出力先の振り分け	Example05.fmw
実習 6 隣接するポリゴンの融合・フィーチャーの集約	Example06.fmw
実習 7 ジオメトリ間の空間的関係の判定・リスト属性	Example07.fmw
実習 8 ジオメトリの座標系変換と計測・クリッピング	Example08.fmw
まとめ / おわりに	

実習で作成するワークスペース例（完成形）は、次の URL から一括でダウンロードできます。ダウンロードしたワークスペースの使い方については実習 1 の最終ページを参照してください。

<http://www.pragmatica.jp/fme/support/quickstart201801/examples.zip>

はじめに

このガイドは、FME Desktop を使い始めて間もない方を対象として、全く白紙の状態からワークスペースを完成させるまでの操作を体験することを通じて、FME Desktop の主な機能と基本的な使い方を理解していただくことを目的とするものです。

FME Desktop の全ての機能や使い方についての説明を網羅するものではありません。このガイドで触れていないことについては、ヘルプや他のドキュメント等を参照してください。

FME Desktop は、次に掲げるいくつかのソフトウェアと関連ドキュメントで構成されています。

FME Workbench（ワークベンチ）
FME Data Inspector（データインスペクター）
<Utilities>
FME Quick Translator
FME Licensing Assistant
FME Integration Console

このガイドでは、これらのうち FME Workbench（ワークベンチ）と FME Data Inspector（データインスペクター）を使います。説明にしたがって、実際にそれら进行操作しながら読み進んでください。

FME Desktop の製品版ライセンスをお持ちでない場合は、評価版ライセンスやホームユースライセンスをご利用ください。

FM 評価版・ホームユースライセンス
<http://www.pragmatica.jp/fme/trial.html>

このガイドに掲載している図やメニューコマンド名などは、FME 2018.1 を Windows 7 で実行したときのものです。FME および/または Windows のバージョンによって、細部は異なることがあります。

ソースデータの準備

FME の利用は、FME Workbench によってワークスペースを作成するところから始まります。

ワークスペースとは、FME を使用してある目的を達成するために必要なデータ変換の手順を定義したものです。

典型的なワークスペースは、既存のデータ（ソースデータ）を読み込み、読み込んだデータに対してなんらかの処理を施し、処理後のデータ（出力先データ）を書き出すための一連の手順で構成されます。

FME には、各データフォーマットに対応したリーダー（ソースデータの読込）とライター（出力先データの書出）、及び多種多様な変換処理を行うためのトランスフォーマーというワークスペースを組み立てるための「部品」が用意されています。

それらの部品は、FME Workbench の画面上では視覚的に表現され、「オブジェクト」と総称します。FME Workbench の画面上でオブジェクトを追加したり、それらの間を接続したりしてデータフロー（データの流れ）を組み立てていくのが、ワークスペース作成の主な作業になります。

ワークスペースはどの部分から作り始めても良いのですが、データの流れにしたがって、ソースデータを読み込むところから始めるのが分かり易いでしょう。

どこから作り始めるにせよソースデータがないことには始まりませんので、まずはソースデータを準備します。

このガイドで作成するワークスペースでは、東京大学空間情報科学研究センター 桐村喬 博士が開発し、ウェブ上で公開している Municipality Map Maker (MMM: 市区町村区域のポリゴンデータ作成ツール) によって作成した全国の市区町村区域ポリゴンデータ (Esri Shapefile 形式) を利用します。

Municipality Map Maker ウェブ版 市区町村区域の GIS データ生成ツール
<http://www.tkimura.com/mmm/>

上記 URL で表示されるウェブページの説明にしたがって、次の条件によって市区町村区域ポリゴンデータ (Esri Shapefile 形式) を作成してダウンロード、解凍してください。

MMM によるソースデータ (Esri Shapefile データセット) 作成条件

時点	2015 年 10 月 1 日
政令市の扱い	政令指定都市を区単位で出力
空間参照系と出力サイズ	世界測地系・重量サイズ

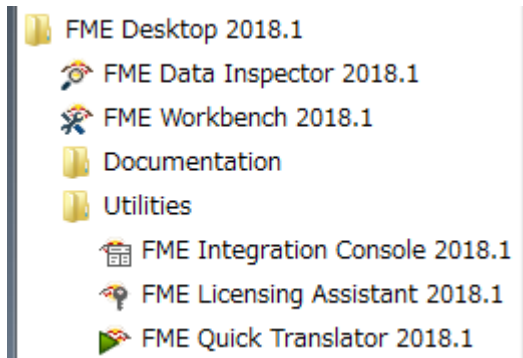
次の 4 ファイルが展開されたことを確認してください。

mmm20151001.dbf
mmm20151001.prj
mmm20151001.shp
mmm20151001.shx

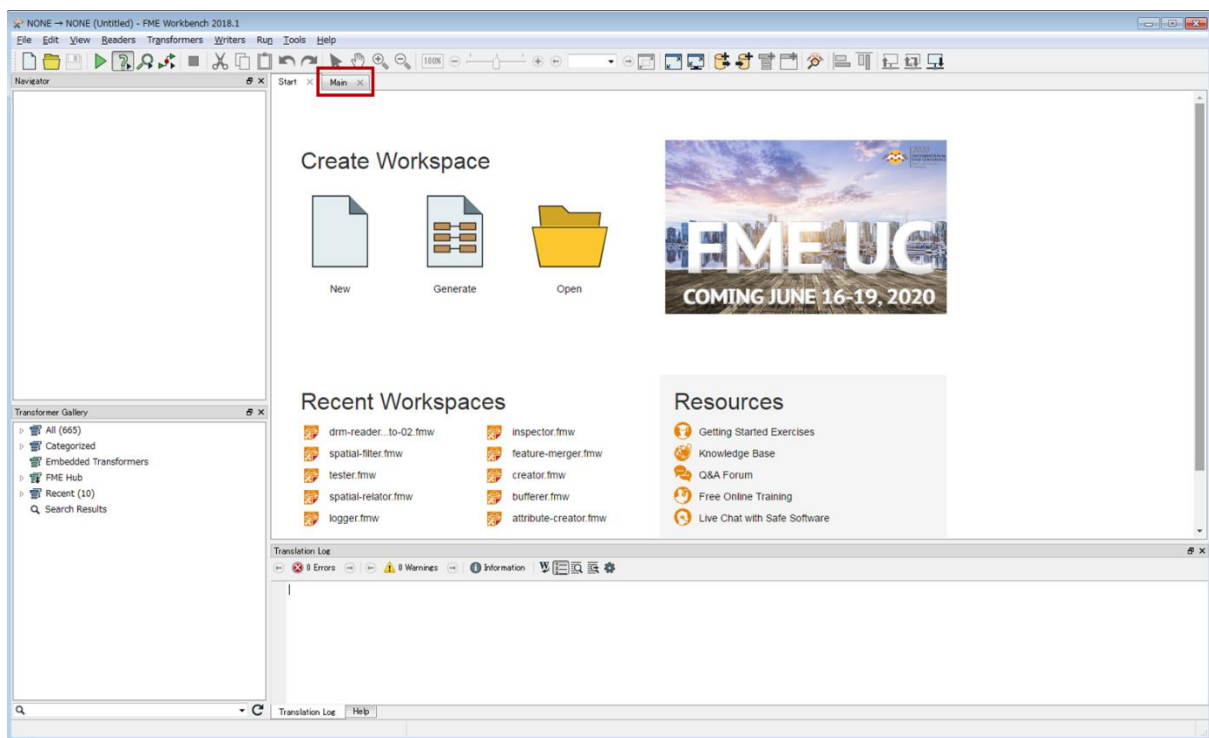
謝辞：このガイドの実習用ワークスペースのソースデータを作成するために MMM を利用することについて、桐村博士のご快諾をいただきました。ここに謝意を表します。

FME Workbench の起動

Windows 「すべてのプログラム」メニューから FME Workbench を起動します。



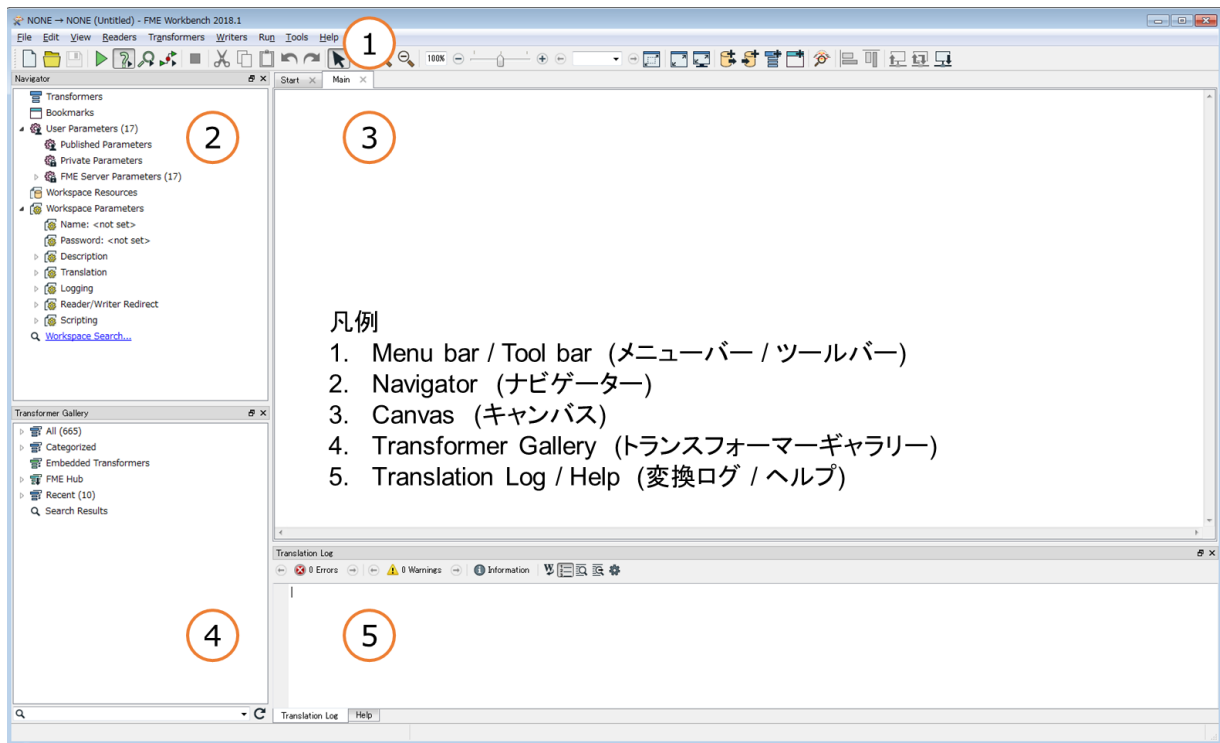
FME Workbench を起動すると、次のような主画面が表示されます。



主画面はいくつかのウィンドウで構成されており、それらの配置やサイズは使いやすいように変更することができます。図は、標準的な配置の例です。

Main タブ（上の図で赤枠で囲んだところ）を選択してください。画面が次ページの図のように変わります。図中の凡例によって、各ウィンドウの名前を覚えてください。

メニューバー、キャンバス以外のウィンドウは、タイトルバーのドラッグによって主画面上に配置する場所を変更できる他、メニュー **View > Windows** で表示/非表示を切り替えることもできます。



これで新しいワークスペース作成の準備ができました。

なお、Workbench で他のワークスペースを編集集中に新たなワークスペースの作成を始めるときは、メニュー **File > New** を選択して **Create Workspace** 画面を開き、**Blank workspace** をダブルクリックするか、または、**Blank workspace** を選択した状態で **Choose** ボタンをクリックしてください。

